



写真=柴田愛子 / (株) シンク・デザイン

【環境コンテンツプロデューサー】

町田 聡

さん



【環境にやさしいイベント証明書】
環境経営を目指す企業の展示会やPR イベントなど、企業からの申請を受け[eepf]がCO₂、カーボンオフセットや削減換算量を算出し、証明書を発行します。企業はその取り組みを公表することで、環境保護に対する姿勢を社会にアピールできます。一般社団法人環境教育普及推進フォーラム URL: <https://eepf.or.jp> お問い合わせ先: contact@eepf.or.jp

- ※注1 プロジェクションマッピング
立体的な物体をスクリーンにして映像を投影する技術。東武スカイツリータウン[®]など東武グループの施設でも行われている。
- ※注2 リキッドライト
リキッド状の着色した油脂やゲルの層をプロジェクターレンズの上で移動させ、ライトを照射し、様々なパターンの映像を映し出す舞台照明の一種。わが国ではディスコ「赤坂 MUGEN」で初めて採用された。

アメリカのレーザーショーでショックを受けた19歳の青年は映像の世界を追求し、プロジェクトマッピング^{※注1}へと行き着いた。47年後の今年、新たな航路の舵を「環境」へと切った町田聡さんにその抱負を伺った。

強烈だったレーザーショック！

——お生まれはどちらですか？

町田 東京の目黒区です。

——お兄様の随筆家町田忍さんも、以前のインタビューに登場されています。

町田 そうですか。兄は銭湯など庶民文化の研究者で、銭湯のジオラマを製作したり、関連の本も書いています。

——町田さんが「映像」に興味を持たれたのはいつ頃からですか？

町田 大学生だった1970年代にアメリカにいた頃、ロックコンサートのライブショーなどを見て、「照明」に興味を抱いたんです。あの頃のコンサートは、サイケデリックサウンドの影響で、音楽と一体になった「リキッドライト^{※注2}」という舞台

照明が主流だったんです。

——ピンク・フロイドとか、プログレッシブロック系のライブでは不可欠でした。

町田 ええ、中でも一番ショックを受けたのは、ロサンゼルススのグリフィス天文台で行われた当時最先端のレーザーを使ったライブショーでした。ヒッピー風の若者たちや大人もいるんですが、スクールバスに乗った子どもたちもいっぱい来ているんです。アメリカはすごいなと思いました。帰って来て1年くらいして、さあ何をやろうかなと思った時、一番インパクトがあったあれだ！と思って、小さなレーザー発振器を買ったんです。

——当時は高価だったでしょう？

町田 真空管式の「ガスレーザー」というタイプで、性能はいまのポインター程度しかなくて、出力は0.5mWで5万円くら

Human-Report

…… 人間大好き ……

414

●まちだ さとし
1957年東京生まれ、1976年和光大学芸術学部在学中に渡米、1年間放浪生活を送る。大学卒業後、日本のディスコの草分け「赤坂MUGEN」の舞台照明、デジタルビデオ機器メーカー、医学教育CGプロダクション、3Dコンピューターメーカー勤務を経て、プロジェクトマッピング協会の設立に参画。その後、10箇所以上のゴミ工場見学コースのプロデュースを手がけ、2023年に一般社団法人環境教育普及推進フォーラム“eepf”を設立し、代表理事に就任。随筆家で銭湯など庶民文化研究家の町田忍氏は実兄。

いだったかな。秋葉原の電気屋さんの紹介で、川崎のNECの工場まで買いに行きました。

プロジェクトマッピングへの進化

——では最初は「映像」ではなく、「照明」だったんですね。

町田 ええ、大学卒業後に当時最先端の「リキッドライト」などの照明技術を導入していたディスコ「赤坂MUGEN」で3年ほど舞台照明を担当しました。ちょうどビデオが普及し始めた頃で、それらを「映像」で記録したくなってきたんですが、そんな趣味的な作品を作ってはかりでは食えないので、それからは映像関係の会社に勤めながら、「ビデオ彫刻」と称したビデオアート作品を作っていました。



今年9月に開催された明治神宮外苑聖徳記念絵画館でのプロジェクションマッピング国際大会の様子。次回は11月10～12日に歴代優勝者の新作を披露するエキシビションが開催されます。
URL: <https://tokyolights.jp>
写真提供: 一般財団法人プロジェクションマッピング協会

※注1 R. バックミンスター・フラー (1895～1983) 現代のレオナルド・ダ・ヴィンチと称されるアメリカの思想家、デザイナー、建築家、発明家、詩人。「最小のもので最大をなす」という発想の元「ジオデシック・ドーム」「ダイヤモンド・カー」など独創的な発明で知られる。著書に『宇宙船地球号操縦マニュアル』など。

——作品の発表はギャラリーなどで？

町田 ええ、モニターを壁面ではなく、ギャラリー空間を囲むように設置して映像を再生するなど、「空間」を意識した展示をしていました。

——それが後のプロジェクションマッピングへとつながっていくんですね。

町田 そうなんです。映像をただモニターに映すだけなら二次元の「平面」ですが、プロジェクションマッピングは「空間」に映像を映し出し、それが時間の経過とともに変化するわけです。僕の場合は最初から「空間」を意識した映像を手がけていましたから、その進化についていきやすかったのかもしれない。

——現在、プロジェクションマッピング協会の顧問でいらっしやるわけですね。

町田 協会ではプロジェクションマッピングの普及活動が主な仕事となります。今年の9月には東京都の共催で「TOKYO LIGHTS 2023」という光の祭典の中で、世界最大級の国際的なコンペティションである「Minute Projection Mapping Competitions」を明治神宮外苑聖徳記念絵画館で開催しました。2012年から数えて11回目の今年は過去最多の58の国と地域、281組がエントリーしました。11月には歴代



受賞者の新作が一堂に集結する「優勝者エキシビション」を開催する予定ですが、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思えます。

ライフワークは環境教育の普及推進

——最近では環境教育という新たな分野に取り組んでいらっしやるそうですね。

町田 はい、ある自治体からの要請で、ゴミ処理施設の見学コースの案内映像を、プロジェクションマッピングを導入し、ストーリー仕立てに制作することがきっかけで、「環境」に興味をもつようになっ

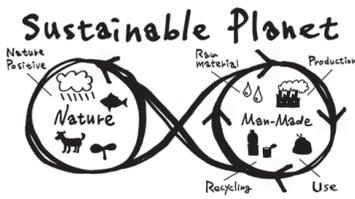
たのです。環境問題と言っても、それこそゴミ、CO₂、海洋汚染など、非常に多岐に及んでいて、それに寄与する仕事に取り組む時、イデオロギーで判断するのではなく、何か指針のようなものが必要だと思っただけです。

——判断基準、エビデンスですね。

町田 ええ、そんな時アメリカの環境保護活動家のポール・ホーケンが書いた『ドローダウン』地球温暖化を逆転させる100の方法」という本に出会いました。この本は世界的な科学者と政策立案者たちの綿密な調査に基づいて、再生可能エネルギー、森林保全、電気自動車など実に様々な100の分野で、どうやって「地球温暖化」を防止し、改善し、逆転していくべきかという具体的な解決方法を提示している、画期的な本なんです。

——実に興味深い本ですね。

町田 ええ、この本のおかげで、取り組むべき具体的なコンテンツは少しずつ見えてきましたが、今度はもっとマクロ的な視野で、精神的な拠りどころとなる思想とは何かと考えた時、昔から何度も読んできたバックミンスター・フラー^{※注1}の『宇宙船地球号操縦マニュアル』に行き着いたのです。フラー博士の思想を一言では言

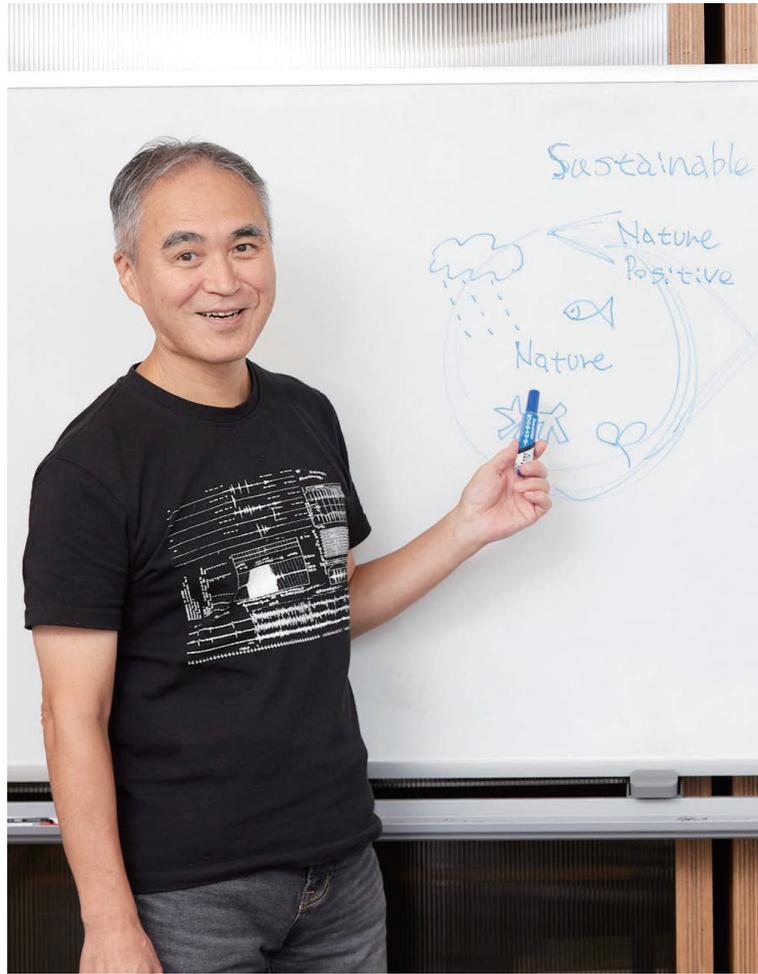


“Sustainable Planet” 「持続可能惑星地球号」 図

い表せませんが、われわれが「宇宙船地球号」を操縦し、動かしていくエネルギーは化石燃料や原子力ではなく、太陽光、太陽熱、水流、地熱、風や潮汐などの自然エネルギーでなければならないということだと理解しています。

—— 基本理念さえ確立すれば、理論的にすべてのケースに対応できますね。

町田 そうなんです。そういった基本理念に基づいて「環境教育普及推進フォーラム」を立ち上げたのです。ここでいう



「環境教育」とは、自治体や企業と共に環境問題を考え、そのためのシステムやコンテンツを提案し、啓発し、その普及に努めていくということです。

—— この図について教えてください。

（ページ上段「Sustainable Planet」図参照）

町田 この図は本フォーラムの理念を表しています。右側は今話題になっているサーキュラーエコノミーと同じく、天然資源「Raw Material」を原料に製品「Product」化して、使用「Use」、リサイ

クル「Recycling、する」という「人工」（Man-made）の営みを示しています。しかしそれでは「自然」（Nature）を消費するだけで自然を再生しながら天然資源を得る、というエンドレスな循環にはなりません。そこで左側の自然と右側の人工がエンドレスにつながるようにしました。この図はフラーの宇宙船地球号の理念とも一致する、惑星視点で物事を考えるための図です。この理念を普及させるため、古着から再生した素材のTシャツにこの図を入れて販売する予定です。今までリサイクルできないでいたものを捨てずに、リサイクル率を上げ、廃棄物を自然に戻すための技術開発でこの図を実現できることを願っており、本フォーラムもその手助けになればと思っています。

—— 今後の展望は？

町田 われわれの基本理念に賛同し、環境問題に貢献したいと考えている自治体や企業が主催するイベントに対し、一般社団法人「環境教育普及推進フォーラム」から「環境にやさしいイベント証明書」を発行しています。それが団体のイメージアップにつながればと思っていますし、賛同してパートナーシップを結んでくれる団体も増えてくれればいいですね。